旧城下図

0 200m

金沢町人のまちなみを歩く
金沢別院エリア

茶屋街と寺院群を歩く
寺町エリア

1 大野庄用水

現在の取水口は犀川桜橋の上流右岸で、河川敷を暗渠で通り新橋上流で開渠となる。長町武家屋敷周辺を経て犀川河口に注ぐ、延長約10.2kmの用水である。鬼川、御荷川とも呼ばれ、金沢城を築くときに、城下まで木材を運んだとも伝えられる。

野村家脇石碑

2 辰巳用水

寛永8(1631)年の大火の翌年、3代前田利常が金沢城内に引水するため板屋兵四郎に命じて造らせたといわれる用水で、玉川上水、箱根用水などとともに、国内有数の古い用水である。また、兼六園の曲水の主要な水源として利用されている。平成22(2010)年に、東岩取水口(上辰巳町)から兼六園までの約11kmのうち流路が変更されていない約8.7kmが国の史跡に指定された。

飛梅町地内石碑

3 西内惣構跡

主計町緑水苑

慶長4(1599)年、前田家が徳川家康に謀反の疑いをかけられた際、客将高山右近に命じて掘らせたと伝えられる金沢城西側の防御ライン。惣構は堀や土塁による防御施設であり、尾山神社から尾張町を経て浅野川べりまで、約1.6kmにおよぶ。終点の浅野川口の主計町では緑水苑として当時の遺構を見ることができる。

4 西外惣構跡(一部、鞍月用水)

これまで慶長15(1610)年に篠原出羽守孝によって造られたとされてきたが、近年、慶長4～6(1599～1601)年に内惣構と同時に建設されたとの指摘もある。本多町3丁目から香林坊を通り長町の鞍月用水に至り、同用水と共用して浅野川まで、約2.8kmにおよぶ。城側に土居を盛り、竹藪などの緑地帯を設けていた。

香林坊2丁目街園

5 東内惣構跡

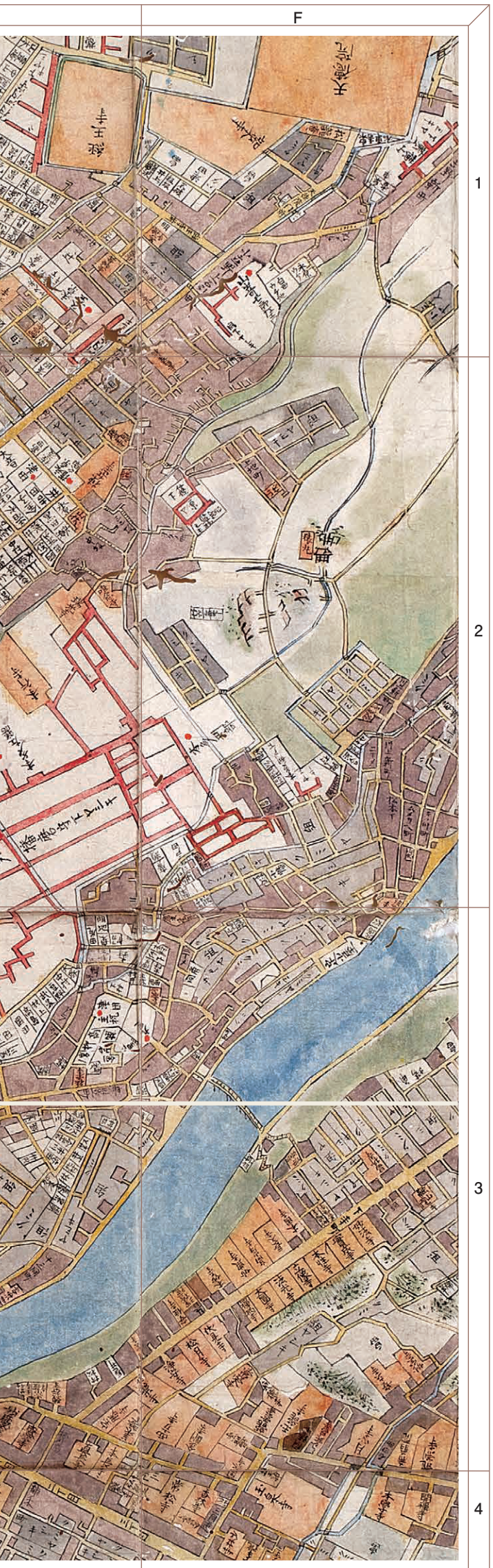
慶長4(1599)年、前田家が徳川家康に謀反の疑いをかけられた際、客将高山右近に命じて掘らせたと伝えられる城下町東側の防御ライン。小尻谷坂付近から始まり橋場町を経て浅野川まで、約1.3kmにおよぶ。城側に土居を盛り、竹藪などの緑地帯を設けていた。

枯木橋詰遺構

6 東外惣構跡

源太郎川合流地点

これまで慶長15(1610)年に篠原出羽守孝によって造られたとされてきたが、近年、慶長4～6(1599～1601)年に内惣構と同時に建設されたとの指摘もある。八坂から材木町を経て浅野川まで、約1.4kmにおよぶ。城側に土居を盛り、竹藪などの緑地帯を設けていた。



伝統文化のまち

表通りは近代建築物が建ち並んでいるが、一歩はずれて裏にまわれば、優雅でひっそりとした昔ながらの「日本の趣」を伝える古いまちがある。金沢というまちも、そうした百万石城下のたたずまいを残すまちといえる。そして、現在、日本的よさを誇るまちのほとんどが、近代都市への脱皮と伝統保存あるいは文化財保存という相反した困難な問題に悩んでいる。金沢もまた、そうしたまちのひとつである。

古都としての奈良や京都にくらべ、歴史や規模にかけるものがあっても、そこには特異な市街形態や伝統文化、他では見ることができない趣と貴重なものが豊富にあるはずである。加賀蒔絵・金箔・加賀友禅といった工芸、能楽・素囃子・加賀万歳といった芸能、茶の湯や食文化など、今日の「金沢文化」がまさにそれらなのである。

現在の金沢の母体は十七世紀後半にできあがった。約一世紀かけたまちづくりから、歴代藩主は人づくりへと移行したのである。歴代藩主の人づくりとは、そうした人々の育成と保護、それらを取り巻く環境の整備と奨励を政策的に行ってきたことなのである。例えば工芸を見てみると、藩祖前田利家・二代利長の頃から名工の招聘は始まっている。その多くは甲冑などの武具の製作や補修をする者であった。三代利常の代になると、その数は急激に増え、さらに工芸品の製作・補修にあたる者も置かれた。さらに五代綱紀は名工のみならず、多数の職人も呼び寄せ、組織的にその運営を行ったのである。その中心的役割を果たしたのが「藩営工房」ともいうべき御細工所であった。

加賀藩御細工所がいつ設立されたのか、正確な年代は明らかではないが、御細工人を統轄していたといわれる井上権左衛門が正保三（一六四六）年に没した後、御細工所の機構が整備された。したがって、江戸時代初期には藩が文化政策を打ち出していたといえる。

それでは、なぜ藩が政策的にこうした組織をつくったのであろうか。それは、藩主をはじめ、城下に住む藩士たちの需要に応えるものであった。そして次第に需要は高まり、産業となったことが工芸技術の発展につながったといえる。すなわち、加賀藩の文化政策は産業振興といえるのである。

そして、現代においてもその政策は引き継がれている。金沢卯辰山工芸工房や金沢21世紀美術館がまさにそれである。こうしたことから も藩政期から受け継がれてきた伝統工芸が現代において産業として息づき、かつ、現代アートへと結びつき、文化が継承されていることがわかる。金沢はそうしたまちなのである。

風土と文化

文化には物質的文化と精神的文化がある。いずれの場合でも、それらを支えているのは人であり、その集団の社会なのである。したがって、金沢の文化は、金沢特有の社会によって生み出され継承されてきたのである。そこには、北陸特有の気候風土、さらには金沢の地形なども大きく影響しているのである。

かつて金沢の人々の一年間の生活には、きちんと季節ごとに節目の行事があった。ことに晩秋から春にかけての行事は、金沢の気候と密接にかかわり、そこで生まれたものは文化のひとつとなっている。

冬の訪れを告げる頃、金沢の家々では冬支度が始まる。家の玄関や窓、あるいは庭の植木等に雪囲いをしなければならない。現在では生活様式が変わり、雪囲いをしない家も多くなってはいるが、かつては冬に対する節目として行われた。兼六園の雪吊りや長町の武家屋敷群の土塀にかけられる藁や莚などは、その例といえる。

この時期になると「大根曳き」が行われた。金沢の冬は長い。雪に埋もれた生活の中で、漬物は必需品であった。各家では大根を大量に買い込み、浅漬けや沢庵漬け、あるいはなれずしである大根寿司やかぶら寿司の漬け込みにとりかかった。さらに、食文化に目を転じると、「ふぐの粕漬け・糀漬」「巻鰤」「棒鱈」「加賀麩」など、いずれも保存食としてのものが多い。これらも越冬の食糧として普及したものである。

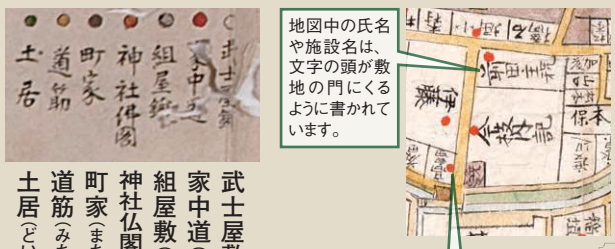
このようにまちの文化をみるとき、その歴史のみならず、そこに生活してきた人々と風土との関係も見逃してはならないのである。金沢の文化も、それらを通してはじめて伝統として実感できるのである。

監修　長谷川 孝徳（はせがわ・たかのり）●北陸大学 未来創造学部 国際教養学科長 教授。専攻は日本文化史（有職故実）、文化資源学。石川県立郷土資料館学芸員、石川県立歴史博物館学芸専門員を経て平成十九年四月より現職。日本古文書学会、文化財保存修復学会、文化資源学会、日本薬史学会、イベント学会に所属する。

編集協力　木越 隆三（きごし・りゅうぞう）●石川県金沢城調査研究所 所長。専門は日本近世史（藩政・城下町・日本海海運）。石川県教育委員会文化財保護課、金沢大学文学部日本海文化研究室研究員、教職などを経て現職。金沢市史専門委員、地方史研究協議会委員。

【 凡 例 】

古地図にはじめから描かれていた凡例



武士屋敷（ぶしやしき）
家中道（かちゅうみち）
組屋敷（くみやしき）
神社仏閣（じんじゃぶっかく）
町家（まちや）
道筋（みちすじ）
土居（どい）

古地図めぐりに便利なように加えた凡例

施設

現存　跡地

用水・惣構跡見学ポイント

1 大野庄用水　2 辰巳用水
3 西内惣構跡　4 西外惣構跡
5 東内惣構跡　6 東外惣構跡

ⓘ 休憩館（観光案内所）

金沢 古地図めぐり

～金沢別院・寺町エリア～

古地図めぐりをする際の留意点

この古地図は、江戸末期の安政4（1857）年頃に作成されたものです。金沢は戦災や大きな自然災害に遭わなかったことから、今も藩政期の町割りが残っています。古地図めぐりを通して約150年前の金沢を感じてください。

- 後世に、幹線道路の整備や土地の細分化が行われたため、古地図とは違う箇所があります。
- 寺社、用水、坂道などは、当時のまま残っているものが多く、古地図めぐりの手がかりになります。
- 主に裏通りでは藩政期の町割りを感じることができます。
- 入館、拝観の可否については、各施設にご確認ください。

伝統的なまちなみ保全のための取組み

戦火を免れた金沢のまちなみは、全国的にもめずらしいものです。古くからのまちなみが特によく残る東山ひがし、主計町、卯辰山麓、寺町台の4地区は、重要伝統的建造物群保存地区として国の選定を受けています。

また、歴史的な特色のある地区を、金沢市独自のこまちなみ保存区域として保全しており、現在9区域が指定されています。

古地図めぐりをガイドします

「まいどさん」は、金沢をより深く知っていただくための活動をしている観光ボランティアガイドです。本マップを活用した観光コースのご相談にも応じますのでお気軽にお申し込みください。

●希望日の10日前までにお申込み
【予約・お問合せ先】
金沢市観光協会 ☎076-232-5555（10時－16時 土日祝休）

●ガイド料は無料
※まいどさんの交通費、入場・入館料、昼食代等の実費はご負担ください

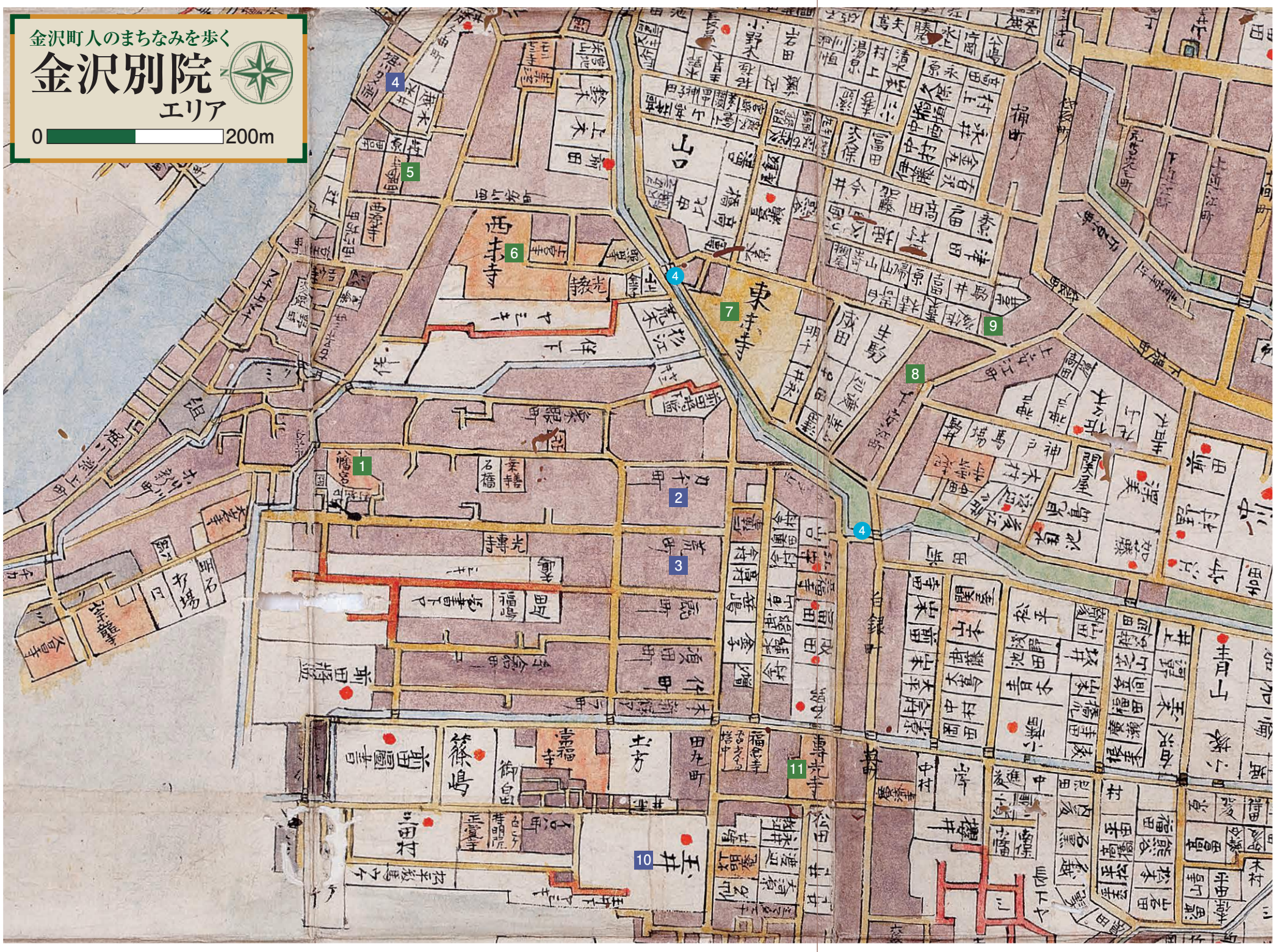
本パンフレットについてのお問合せ先
金沢市観光政策課　金沢市広坂1-1-1 Tel:076-220-2194

文化庁　ちょっと、金沢まで。

平成26年度 文化庁文化芸術振興費補助金（文化遺産を活かした地域活性化事業）
発行：金沢市　金沢市観光協会
2019年12月発行

資料提供：表紙上／金沢市
表紙下／金沢市立玉川図書館近世史料館所蔵 旧藩祖三百年祭等各町催物画（笠市町）
古地図／石川県立歴史博物館所蔵 大聖コレクション 金沢城下絵図

凡例 ［施設］ 現存 跡地 ［用水・惣構跡見学ポイント］ 4 西外惣構跡 ⓘ 休憩館（観光案内所）



1 安江八幡宮

☎076-233-3688
【 MAP 金沢別院A-3 】

旧鍛冶町に鎮座していることから鍛冶八幡とも呼ばれる。

2 鍛冶町

【 MAP 金沢別院A-3 】

江戸初期、加賀藩はこの地に鍛冶職を集住させ、3代前田利常は御用刀鍛冶には当地に宅地を与え優遇した。元禄8（1695）年の「金沢町絵図名帳」によれば、御普請鍛冶・刀鍛冶・鋳物師細工の鍛冶関係の職人が居住している。

3 荒町

【 MAP 金沢別院A-3 】

鍛冶町の西に並行して、ほぼ南北に延びる両側町。はじめは木ノ新保新町と呼ばれていた。町名は新たに町立てしたことにちなむ。文化8（1811）年の家数は118軒で、うち武家・小者は29軒とあるように、町人の町であった。

4 堀川揚場

【 MAP 金沢別院A-3 】

元和6（1620）年宮腰（現・金石）・大野の両湊から船を入れるため堀川を通した。金沢城下への舟運が盛んに行われ、両湊から運ばれた荷物を陸揚げした場所が当地である。

5 西勝寺

☎076-261-4030
【 MAP 金沢別院A-3 】

浄土真宗本願寺派の寺院。越中国（現・富山県南砺市）より移転。江戸時代は西末寺の看坊であった。俳人堀麦水（天明3（1794）年没）の墓がある。

6 西別院

☎076-221-0429
【 MAP 金沢別院A-3 】

浄土真宗本願寺派の金沢別院で西別院と称される。江戸時代には西門跡末寺・西末寺などと呼ばれた。元和元（1615）年当地に移転した。一方、寛永11（1634）年とする説もある。現在の堂宇は天保8（1837）年の火災後の再建によるもの。

7 東別院

☎076-261-6432（金沢別院事務所）
【 MAP 金沢別院A-3 】

真宗大谷派の金沢別院で東別院と称される。江戸時代は東末寺などと呼ばれた。東末寺は寛永7（1630）年以来、数度焼失し、現在の堂宇は昭和37（1962）年の火災後の再建によるもの。

8 目細八郎兵衛商店

☎076-231-6371
【 MAP 金沢別院B-3 】

天正3（1575）年創業の針商。成形の難しい絹針の目穴に、初代八郎兵衛は工夫を凝らして今のめぼそ針を作った。糸が通し易いと評価を受け、加賀藩主より「めぼそ」の名前を頂戴した。のちこの針を用いて鮎釣りの毛針を考案し、加賀毛針として世に広まった。

9 近八書房

☎076-231-6148
【 MAP 金沢別院B-3 】

初代近岡屋八郎右衛門が、寛政元（1789）年、木ノ新保（現・金沢市本町）に近岡屋として創業。のち現在地に移転し、書籍の出版・販売を商いとした。能楽宝生流の謡本「近八版」は加賀宝生の教本として尊重された。

10 玉井町

【 MAP 金沢別院A-3 】

明治2（1869）年に成立。もとは加賀藩士玉井勘解由屋敷・同下屋敷地。元禄6（1693）年の侍帳には「安江木町専光寺近所」とあることから、江戸時代初期から居住していたと考えられる。玉井家の初代頼母は慶長5（1600）年前田利長に仕えて知行4千石を受け、足軽頭を勤め元和元（1615）年に没した。子孫も代々藩に仕え、知行5千石を受けていた。

11 専光寺

☎076-221-0679
【 MAP 金沢別院A-3 】

真宗大谷派の寺院で山号は護方山。正和2（1313）年石川郡大糠（現・金沢市大額）に創建し、文明年中同郡吉藤村に移転。天正中同郡鶴来に移り、慶長元（1596）年に御城後町に移転後、元和中現在地に移転した。

1 にし茶屋街

【 MAP 寺町E-4 】

文政3（1820）年「ひがし」とともに遊郭として加賀藩から許可された。野町2丁目に木戸を設けて、武士と僧侶の出入りは禁じられていた。天保2（1831）年に廃止されたが、慶応3（1867）年西新地として再興された。

2 旧森紙店

【 MAP 寺町E-4 】

野町広小路交差点から国道157号南側間もなく、左手に森紙店がある。移築建造物を除き、金沢市内に現存する唯一の板葺き石置き屋根である。城下町金沢の家々は、このような板葺き（コバ葺き）屋根が多かった。

3 願念寺

☎076-241-3359
【 MAP 寺町F-4 】

真宗大谷派の寺院で山号は木一山。松尾芭蕉が金沢の俳人小杉一笑の死を悼んで詠んだ「塚もうごけ我がなく声は秋の風」の句碑がある。小杉家の菩提寺でもあり、一笑の辞世の句「心から雲うつくしや西の雲」の句碑もある。

4 妙立寺

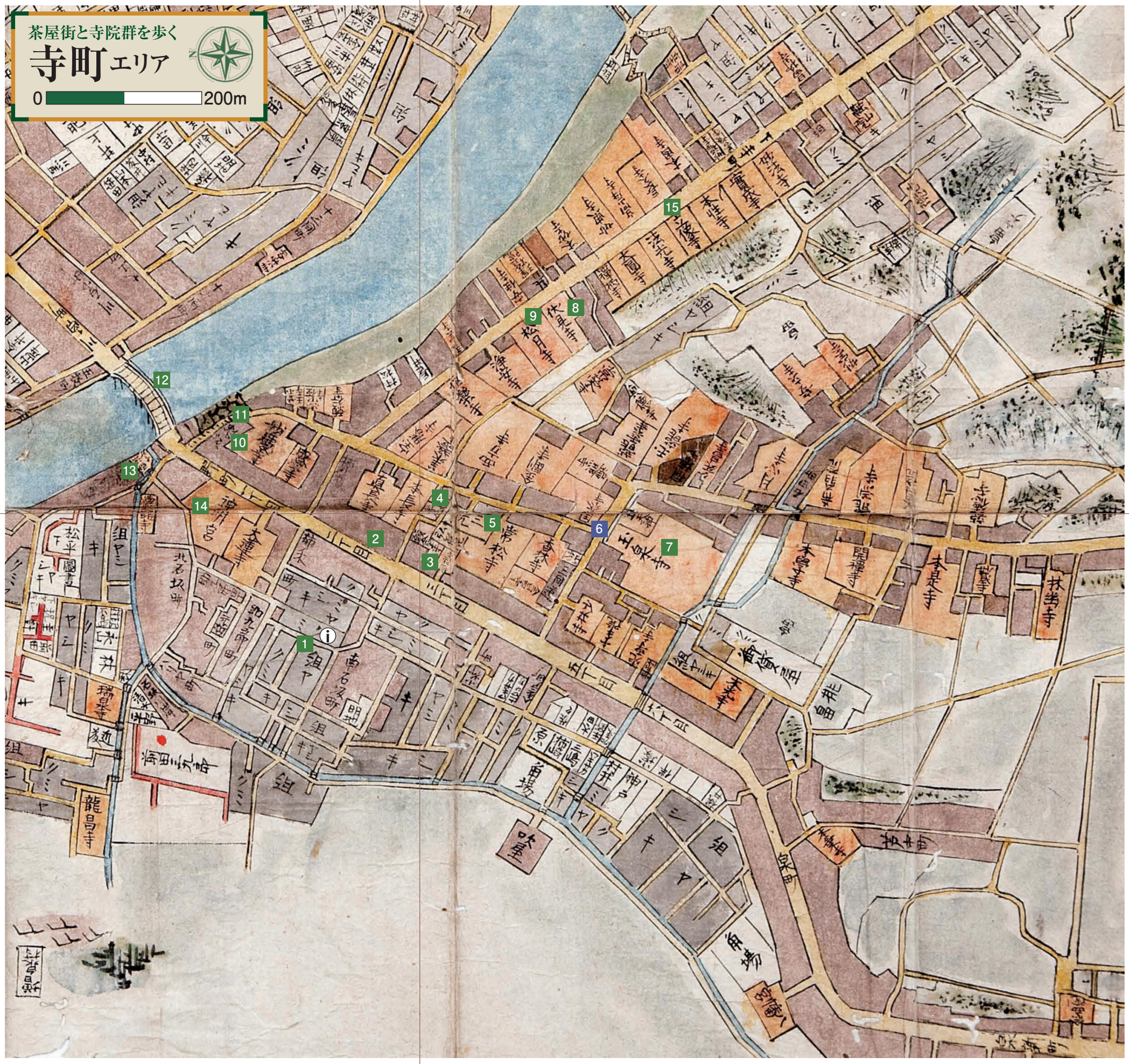
☎076-241-0888
【 MAP 寺町F-3 】

日蓮宗の寺院で山号は正久山。建物は2階建てであるが、内部は一部4層にするなど、本堂と庫裏に様々な仕掛けが施されていることから「忍者寺」と呼ばれている。

茶屋街と寺院群を歩く

寺町エリア

0 200m



5 三光寺

☎076-241-9959
【 MAP 寺町F-4 】

浄土宗の寺院で山号は真如山。明治11(1878)年、旧加賀藩士の島田一良らが現在の東京紀尾井町で内務卿大久保利通を暗殺した。その計画の集会の本拠としていた寺。このことから事件の首謀者たちは「三光寺派」と呼ばれた。

6 六斗の広見

【 MAP 寺町F-4 】

地名は、加賀国住人の林六郎光明の郎党六動太郎光景に由来し、六動林、六斗林にちなむ。広見は桝形や卍形などの広い空間のことで、火災の延焼を防ぐためのまちづくりの一つ。藩主ゆかりの寺社前などにも設けられた。

7 玉泉寺

【 MAP 寺町F-4 】

時宗の寺院で山号は光顕山。織田信長の5女で加賀藩2代前田利長夫人永姫の菩提所。もとは越中新庄(現・富山市)にあって浄禅寺と号し、のち富山、高岡を経て現在地に移った。寛永6(1629)年寺号を玉泉寺と改め、利長夫人玉泉院の牌所とした。

8 伏見寺

☎076-242-2825
【 MAP 寺町F-3 】

高野山真言宗の寺院で山号は行基山。本尊の阿弥陀如来坐像は平安前期の金銅仏で、国から重要文化財に指定されている。また、「金沢」の地名となった芋掘藤五郎の伝説から伏見寺と名付けられた。

9 松月寺

☎076-241-0874
【 MAP 寺町F-3 】

曹洞宗の寺院で山号は瑞亀山。中興の至岸和尚が、加賀藩3代前田利常から小松城内にあった桜を拝領したと伝えられる大桜がある。御殿桜とも呼ばれるこの桜は、国から天然記念物に指定されている。

10 妙慶寺

☎076-241-3003
【 MAP 寺町E-3 】

浄土宗の寺院で山号は安養山。加賀藩士松平康定の菩提寺。康定が3代前田利常から寺地を得て、母妙慶尼の菩提所とした。蛤坂上にあるが、蛤坂が拡張されるまではこの坂を妙慶寺坂といった。

11 蛤坂

【 MAP 寺町E-3 】

犀川左岸、大橋橋詰から寺町に抜ける坂道。享保18(1733)年の火災後、町家を後退させ川岸を築いて道を開いたことを、蛤が焼けたあとに口を開く様子にかけたと伝えられる。

12 犀川大橋

【 MAP 寺町E-3 】

国登録有形文化財。北国街道の犀川大橋として、藩政期から交通の要衝であった。現在の橋は大正13(1924)年に架け替えられた。長さは約62mで、鋼製曲弦ワーレントラス式。平成21(2009)年に青色から青緑系に塗り替えられた。

13 雨宝院

☎076-241-5646
【 MAP 寺町E-3 】

高野山真言宗の寺院で山号は千日山。同寺の縁起によれば、雄勢という僧が諸国行脚の途中伊勢神宮に千日参詣し、満願後の文禄4(1595)年に当地へ来て朽ちた寺を再興した故事によるという。室生犀星はここに預けられ、幼少期を過ごした。

14 神明宮

☎076-241-1613
【 MAP 寺町E-3 】

古来より神明宮と称し、始め卯辰の摩利支天山に鎮座したが、延文2年(1357)に今の地に転じ、のちに加賀藩主2代前田利長、3代前田利常から社地が寄進された。毎年5月・10月の15～17日が春秋例大祭で、悪事災難厄除になるいうあぶり餅神事が有名である。境内には樹齢千年を超えるといわれる大欅がある。

15 立像寺

☎076-241-2032
【 MAP 寺町F-3 】

日蓮宗の寺院で山号は妙布山。天正年間の前田利家の時、越前府中から来て河原町に創建したが、のち現在地に移転した。鐘楼は、江戸時代には珍しい2階建ての入母屋造で、本堂とともに金沢市の有形文化財に指定されている。